

3

A long, long time ago, there lived a friendly old couple at the bottom of the mountain.

One day, an old man left the house to collect some firewood.

Around lunch time, the old man took out rice balls in a packet from his pocket.

“Phew, I’m tired. I am starting to feel hungry, so maybe I should have lunch now.”

He opened his mouth wide and tried to eat his rice ball. In the next moment, a rice ball that was resting on his knees had fallen off and rolled down the hill.



5

“Oh, no! Wait!”

The old man quickly chased his rice ball.

The rice ball rolled and rolled down the hill, and eventually fell into a hole near the root of a tree.

“Sigh, what a waste…”

He was very disappointed.

Then suddenly, he heard a mysterious song from the hole.



むかし むかし、ある やまの ふもとに、
とても なかのいい、おじいさんと おばあさんが
すんでいました。

あるひ、おじいさんは やまへ たきぎを ひろいに
でかけました。

おひるどきに なったので、おじいさんは
ふところから『おむすび』の はいった つつみを
とりだしました。

「ふう、どれどれ。

ちょうど はらも へってきた ところだし、
ここで ひるめしでも とろうかな」

おじいさんが おおきく くちを あけて、おむすびを
たべようとした そのとき、ひざの うえに
おいていた おむすびが ぽろっと おっこちて、
そのまま ころころと ころがって行って
しまいました。



「ああ、いかん。まてー！」

おじいさんは、あわてて おむすびを
おいかけました。

おむすびは やまの しゃめんを ころころと
ころがりつづけ、やがて、きの ねっこに あいていた
あなの なかに、すっぽりと おちてしまったのです。

「あ～あ、もったいない、もったいない・・・」

おじいさんは がっかりしました。

すると あなの なかから、
ふしぎな うたが きこえてきました。

